

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/28	50146	小林化工株式会社	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	アメリカ	有効成分	無	無	無			
2005/4/28	50147	三共株式会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Press Release 2005年2月2日	2005年1月28日、BSEに対するOIE委託研究所である英国の獣医学研究所を含むEUの専門研究所からのフランスのヤギにおけるBSE初症例について。
2005/5/6	50148	メルスモン製薬株式会社	胎盤絨毛分解物	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤		有効成分	無	無	無			
2005/5/9	50149	東和薬品株式会社	ウリナスタチンの注射液	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト陽上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											鳥インフルエンザウイルス	Public Health Agency of Canada released 2005年1月14日	ベトナムにおけるトリインフルエンザ(H5N1)のアジア各国でのアウトブレイク発生に対する嚴重な注意喚起。
2005/5/9	50150	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アポセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004; 364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃、筋肉等からはPrPresが検出されなかったが、脾臓に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2004;53(36)842-4	2004年、米国における輸血に関連した西ナイルウイルス感染が1例報告された。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/GSR 2004年9月28日	ヒトからヒトへのトリインフルエンザ(H5N1)感染の可能性について。
											E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後に原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月22日	国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会 学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性が示された。
2005/5/11	50151	沢井製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Proceedings of National Academy of Science 2004;101(5):1356-61	高病原性鳥インフルエンザA(H7N7)型ウイルスがヒト-ヒト感染した可能性を示唆する事例
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
2005/5/12	50152	大洋薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	ブルセラ症	Veterinary Microbiology 2004;103:47-53	ナイジェリアの家畜におけるブルセラ感染の予備的観察の提示。
											大腸菌性胃腸炎	J of Food Protection 2004;67(10):2274-6	ブタが病原性大腸菌O157:H7の潜在的な保有者とされた調査結果。
2005/5/13	50153	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/5/13	50154	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/5/13	50155	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	DNase I	ウシの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	有			
2005/5/13	50156	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	カナダ	製造工程	無	無	有			
2005/5/13	50157	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	有			
2005/5/13	50158	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/13	50159	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004 ;364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃、筋肉等からはPrPresga検出されなかったが、扁桃に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2004;53 (36)842-4	2004年、米国における輸血に関連した西ナイルウイルス感染が1例報告された。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR 2004年9月28日	ヒトからヒトへのトリインフルエンザ(H5N1)感染の可能性について。
											E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後に原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
											鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月22日	国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会 学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性が示された。
2005/5/6	50160	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(7):1321-4	発熱や下痢症状を示しているが、呼吸器症状を示していないトリインフルエンザ罹患に関する情報

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	ProMed20041222-3372(厚生労働省ホームページ2004年12月23日)	2004年2月、ニワトリで発生した鳥インフルエンザ(H5N1)のヒトへの感染。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
2005/5/6	50161	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(7):1321-4	発熱や下痢症状を示しているが、呼吸器症状を示していないトリインフルエンザ罹患者に関する情報
											鳥インフルエンザウイルス	ProMed20041222-3372(厚生労働省ホームページ2004年12月23日)	2004年2月、ニワトリで発生した鳥インフルエンザ(H5N1)のヒトへの感染。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
2005/5/16	50162	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	ウシ血清	ウシの血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア(現在ウイルス培養工程で米国産原材料は使用していない。)	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	パングラディシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/16	50163	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストラリア	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50164	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国(次回種菌培養よりニュージーランド産に変更予定である。)	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50165	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50166	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたうかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたうかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/16	50167	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリアはしよ うふう混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュー ジーランド	製造 工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50168	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、 米国、カナダ、 ニュー ジーランド	製造 工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50169	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし (製造中止品目)	添加 物	有	無	無	E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後に原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005;191(4):499-502	New Haven コロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが典型的な川崎病の6ヶ月令の小児の呼吸器分泌液に存在していた。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005; 191(4):492-8	NewHavenコロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが遺伝子配列分析によってオランダで最近報告された新規HCoVと密接に関連していることが明らかになった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											HIV	MHRA/CRD Weekly 10, March 2005	職業的曝露後に医療従事者で発生した「実証された」および「可能性のある」HIVセロコンバージョン症例に関する報告。
2005/5/16	50170	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし (製造中止品目)	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/17	50171	帝国臓器製薬株式会社	HMG注テイゾー150	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ニパウイルス	バングラディッシュ国際下痢疾患研究センターHP(ICDDR, B)	ニパウイルスのヒト-ヒト感染伝播について。
											コロナウイルス感染	European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14	SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について
2005/5/18	50172	アベンティスファーマ株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	British Medical Journal;329(251)	輸血によるvCJDに感染したと思われる2例目の症例
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004 ;364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃。筋肉等からはPrPresga検出されなかったが、脾臓に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
2005/5/19	50173	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質 (huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	有	鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月18日	京都の鳥インフルエンザの抗体検査結果について
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005;191:492-8	NewHavenコロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが遺伝子配列分析によってオランダで最近報告された新規HCoVと密接に関連していることが明らかになった。
											サルモネラ	感染症学雑誌 2004;78(11):989-90	日本においても多剤耐性Salmonella Newportが存在していることが確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance Weekly 2005;10(6)	2005年2月、日本で初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病事例。現在のところ英国滞在中にvCJD感染物質に曝露した可能性が有力。
											レトロウイルス	ProMed20050227-0040(Reuter News 2005年2月25日)	これまで人間では感染が認められなかった新規2種のレトロウイルスがカメルーン日常的にサルを狩猟している人々から発見された。(HTLV-3,HTLV-4)
											大腸菌性胃腸炎	日本小児学会雑誌 2005;109(1):54-7	VT2産性の腸管出血性大腸菌O177:HNMによる溶血性尿毒症症候群(HUS)の1例
											HIV	The Lancet 2005;365(9464):1031-38	2004年12月にヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)感染と診断された男性の症状は20ヶ月以内(おそらくは4ヶ月以内にAIDS)に進行した。
2005/5/23	50174	株式会社ベネシス	乾燥人フィブリノゲン フィブリノゲン加第X III因子	①凍結乾燥注射剤② その他外用	人血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会(SEAC)の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet Norske Veritas(DNV)が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的とした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行(DNVのHPIには2004年4月に公表)された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11):1900-7	サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、膵臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒトヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin, 2(2), 2004	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起こすウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	<p>CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。</p>
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	<p>アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年~2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。</p>

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/23	50175	株式会社ベネクス	トロンビン フィブリノゲン加第X III因子	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会 (SEAC) の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet Norske Veritas (DNV) が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的とした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行 (DNVのHPには2004年4月に公表) された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004 年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrP ^{Sc} のタイプに分類したサーベランスを行なうことによつて、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrP ^{Sc} タイプや特定のPrP ^{Sc} サブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。
											サルパルポウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルポウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会 (AABB) は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス (HAV) の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、膵臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒトヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。